



道神青

第12号

北海道
神道青年協議会
平成10年7月20日

祝平成11年神道青年全国協議会 創立五十周年

平成十年度道神青協定例総会・講演会開催

去る、平成十年四月九日午後二時三十分より、北海道神社庁に於いて、全道より五十名程の会員が集い、平成十年度北海道神道青年協議会定例総会が開催された。

開会の辞に続き、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き、植田会長の挨拶、御来賓の永井高明北海道神社庁副庁長より御挨拶を頂き、議事に入った。

審議に先立ち議長選出を行い、札幌支部青年神職文月会の内田悟君が選出され、平成九年度の会務報告、各種会計収支決算報告、監査報告を行い承認を受け、平成十年度基本方針並びに事業計画案、同予算案、また道神青協創立五十周年記念事業、同特別会計予算案について活発な審議がなされた。

道神青協創立五十周年については記念式典を平成十一年四月六日に、ホテルポールスター札幌に於いて開催、また記念事業として、(仮称)道神青協五十年史の刊行と、好評の道内神職写真入り名簿の再版が承認されるとともに、予算については募財を行わず、周年事業の為の積み立て金と、会員一人五千円の醵出金によって賄うことが承認された。

併せて会長より神道青年全国協議会創立五十周年の会員醵出について説明があり、内田議長のお取り計らいによつて、神青協定例総会に当たつて、道神青協として三千円の会員醵出に賛成することを決議した。

議事終了後、各単位会より平成九年度事業活動報告がなされた。

総会後開催されたミニ講演会は、平成八年度の開催から三回目となり、今回は札幌国際大学短期大学部幼児教育科教授平野良明先生をお迎えして、「神社と青少年教育—徳の教育とは—」と題して御講演頂いた。

講演の中では、子供の可能性と戦後教育の問題について触れられ、思いやりや協調性という民主主義的な価値観だけで育てられた子供たちが、取り違えた個人の自由の中で今日の様々な問題を引き起こしており、戦後切り捨てられた道徳教育の重要性を訴えられた。

道神青創立五十周年記念事業

特別会計予算

【収入の部】

一、道神青事業費 三〇〇万円
二、大会参加費 一〇〇万円
三、助成金 ※一万円×一〇〇名

※道神社序より
四、会員釀出金 九〇万円

五、諸収入 ※五千円×一八〇名 一五〇万円
合計 六五〇万円

【支出の部】

一、記念大会費 二八〇万円
(内訳) 式典費 一〇〇万円
講演費 八〇万円
祝宴費 一〇〇万円

二、記念事業費 (内訳)
年史刊行費 二二〇万円
名簿作成費 六〇万円
神青協助成費 二〇万円
※北方領土の碑祭典助成 (平成十一年六月予定)

三、事務費 一〇〇万円
四、雑費 二〇万円
五、予備費 六五〇万円
合計

基本方針

神青協第五回定期総会開催 —創立五十周年記念事業計画案 並びに特別会計予算案承認—

昨年より実施された協賛金制度の導入は、当初の目標を大きく上回り、道内各社より寄せられた御厚情誠に有り難く、我々青年神職はその使命を改めて肝に命じなければならぬ。この事を踏まえ、本年もより多くの会員が参加しやすい環境と、相互の意見交換の場を提供する一方、更に発展させ我々のフィールドで出来る対外的な活動の可能性を模索する。また一年後に迫つた創立五十周年に向け、記念事業等具体的に着手し、万遺漏なきよう準備を進める。

去る、平成十年四月二十二日神社本庁に於いて、神道青年全国協議会第五十回定期総会が開催された。本会より代議員の近藤副会長・田湯事務局長・永井理事をはじめ道内から七名の会員が出席し、平成九年度会務報告・会計決算並びに平成十年度事業計画案・会計予算案が承認された。又、来年に神青協創立五十周年を迎えるにあたり、準備委員会で協議されてきた記念事業計画案並びに特別会計予算案が審議された。

神青協創立五十周年の主題は「次世代への継承」で、記念事業としては記念式典の開催、神宮・靖國神社・護国神社への奉贊活動、世界平和祈願祭の開催、聖寿奉祝の碑・北方領土の碑祭典の開催、神青協五十年史の刊行、子供向け教化冊子の作成、神道教化ビデオの製作、記念表彰の実施が示され、

会員一名より三千円の負担金を徴収し、他募財活動にあたることが承認された。

第五十回 定期総会決議

本年御即位十年の佳節を迎へ謹んで奉祝の意を呈する。

茲に、神道青年全国協議会第五十回定期総会にあたり、組織機構を整へるとともに、青年神職の責務のもと我が國の文化伝統の護持に邁進し、平成十一年本会創立五十周年に際して、次世代へ向けた記念事業を悉無く遂行することを期する。

右、決議する。

平成十年四月二十二日

神道青年全国協議会

事務機構整備に関する会則改正並びに総会議規則制定の議案は取り下げられ、臨時総会が七月十四日に開催されることとなつた。

単位会ニュース

松前神楽研修会

尻岸内八幡神社

櫛宜 荒木 力弥

当渡島神道青年会は、道南
神職必修の松前神樂の習得と
会員の親睦を図る為に、毎年
一泊二日の日程で研修会を実
施しております。

今年の研修会は、去る六月

二・三日の両日函館八幡宮にお
きまして開催致しました。

研修会には、三名の講師先

生と受講者十八名が参加し、
初心者と経験者に別れて実技
指導を受けました。

一日目終了後の懇親会の席

では、講師先生より、「年々
研修会も充実し、各々自己の
研鑽がなされ、指導に当たつ
て皆様の習得の速さに驚きました。」
とお褒めの言葉を頂

きました。

二日目も丸一日実技指導。前夜
の酒と寝不足で早く床に就けばと
反省しつつ、汗水を流しながら指
します。

松前神樂研修会

今年の研修会は、去る六月
二・三日の両日函館八幡宮にお
きまして開催致しました。

研修会には、三名の講師先
生と受講者十八名が参加し、
初心者と経験者に別れて実技
指導を受けました。

一日目終了後の懇親会の席

では、講師先生より、「年々
研修会も充実し、各々自己の
研鑽がなされ、指導に当たつ
て皆様の習得の速さに驚きました。」
とお褒めの言葉を頂

きました。

一日目終了後の懇親会の席

では、講師先生より、「年々
研修会も充実し、各々自己の
研鑽がなされ、指導に当たつ
て皆様の習得の速さに驚きました。」
とお褒めの言葉を頂

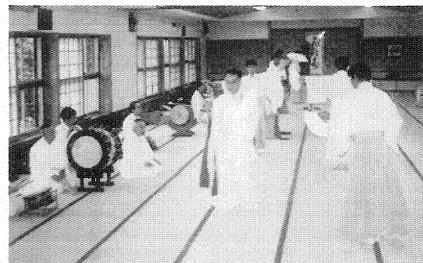
きました。



開きかけの紅い花をつけた梅の



（上田祐）



靖国神社記念植樹（文月会通信復刊準備号より抜粋）

去る三月四日、五十周年記念最初の事業として、靖国神社において記念植樹を行った。

植樹に先立ち、鉄砲洲稻荷神社にて中川宮司のご指導により禊を行い、続いて正式参拝を行った。

心身共に充実した後、靖国神社に移動。湯沢宮司にご挨拶をいただいた後、昇殿し奉告祭を行った。

奉告祭終了後、本殿の左側の庭園に移動し文月会創立五十周年記念植樹と「英靈に捧ぐ」との趣旨を書いた立て札と共に、高さ三メートルを越す紅梅が、会員一人一人の手により土をかけられての植樹であった。

天候にも恵まれ、会員一同五十年に向けて、新たに心を期する

一日であった。（上田祐）

木は、快晴の東京の空の下、周辺の樹木の中ひとつ華やかで、想像以上の立派な木であった。

植樹の後、その場にて献木の清祓の儀が行われ、拝殿前にて記念撮影引き続いて遊就館を拝観し一連の事業を終了した。

今回の事業には現会員をはじめ元会員金井格君（元北海道神宮：現御嶽山神社）、将来会員になるであろう山口亨君（錦山天満宮山口宮司長男：現龜戸天神社）が参加、懇親会には三橋昌功君（豊平神社三橋宮司次男：現富岡八幡宮）も出席し、親睦を深めた。

天候にも恵まれ、会員一同五十年に向けて、新たに心を期する一日であった。（上田祐）

文月会創立五十周年記念事業

女子神職コース

北海道女子神職協議会

新役員を選出

去る三月十三日に行われた

臨時総会に於いて新役員が選

出され、四月一日でそれぞれ

就任致しました。

任期は平成十年四月一日～

平成十三年三月三十一日です。

新任再任ともに心を一つに
し、会の運営とこれから的发展のため努力してまいります
ので、御指導協力賜ります
よう、よろしくお願ひ申し上げます。

ズームアツブツ地方発信②

会長	港 和子（再任）
副会長	佐藤 恵美（再任）
全理事	村井 直子（新任）
全監事	三澤吏佐子（再任）
白取 靖子（再任）	後藤 聰子（新任）
須浪 季美（新任）	濱村 啓子（再任）

定例総会を開催

去る五月七日旭川市上川神社に

おいて新入会員を含め十一名の会員が出席し、北海道女子神職協議会

会平成十年度定例総会が開催されました。

午後二時の正式参拝の前に柴田宮司様より直々に境内施設を始め

上川神社の歴史に至るまで御説明を頂き、境内から旭川市内を眺め

つつ御社殿に向かいました。正式

参拝を終え会長が代表で参拝者名簿に記帳すると思いきや、全員が

記帳させて頂くとのこと。緊張で手を震わす会員もおりましたが、

無事に終了。次に宮司様のお計らいでプロの写真屋さんによる記念撮影があり、この時の写真は後日参加者全員に立派な台紙と共にご恵送いただきましたが、さすがプロの方に撮影して頂いた写真是本物以上に美しい仕上がりでした。

又、東北以北では最大という舞殿や社務所内に展示されている神宮皇室ゆかりの御宝物の数々を詳しく御解説いただきました。特に、貴重な昭憲皇太后陛下の檜扇を私共のために特別ご用意頂いたと伺い、重ね重ねの御高配に一同感激

いたしました。

予定通り午後三時より別室をお借りして定例総会を開催。新役員の挨拶後、協議の結果、平成十年度事業計画・予算など、原案通りに承認されました。

この度の総会を開催するにあたり、柴田宮司様をはじめ上川神社職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

柴田宮司様をはじめ上川神社職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

柴田宮司様をはじめ上川神社職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

柴田宮司様をはじめ上川神社職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

柴田宮司様をはじめ上川神社職員の方々には大勢でお邪魔しました上、数々のお心遣いを賜り厚く御礼申し上げます。

上川神青と交流会

大成功!!

・旭川神社・兵村記念館を訪問

上川神社での総会を無事に終え、同日六時三十分より旭川市内の居酒屋にて上川神道青年会との交流会を開催いたしました。

日頃から女子神職以外の方と交流を深めたいとの要望もありましたがあやつと実現できました。この日は上川神道青年会足立会長をはじめ、七名の会員の方々の自己紹介、乾杯の後、美味しいお料理とお酒を頂きながら和やかに賑やかに親交を深めました。第二次会は、上川神道青年会御用達のお店に御案内いただき、皆様のサービス精

神と芸達者ぶりに驚かされ、大いに盛り上りました。日頃のストレスがすっかり発散できたと感謝しております。

私共の申し出に快く応じて頂き、また数々のお心遣いを賜りました上川神道青年会の皆様に厚く御礼申し上げます。

翌日八日には、旭川神社を参拝し、隣接する兵村記念館を拝見いたしました。

上川神道青年会の皆様に厚く御礼申し上げます。

意義で楽しく過ごすことができました。特に女性ばかりの会ということで数々のご配慮を賜り有り難く存じます。これからも道内神職の皆様の御指導御協力の下、互いに親睦を図り研鑽に勤めてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

会員一ユース

道内神職初!

上士別神社

佐藤

恵美さん

「浦安の舞」御免状を頂く!!

例年明治神宮で開催されている

神社音楽協会主催の「浦安の舞」

講習会を続けて受講されてきた当

会副会長の佐藤恵美さんが、今年

四月に開催された同講習会にて級

認定試験の受験を許され見事合格

されまし。これは道内在住神職

で初の快挙です。この講習会は認

定試験を受験しても合格するのは

難しく、大変厳しい講習会です。

佐藤さんは過去五回にわたり受講

しておりますが、先生に勧められ

この度初めて認定試験を受け見事

一回で合格されました。これもひ

浦安の舞

紀元二千六百年（昭和十五年）の奉祝祭典のため、時の宮内省樂部長 多忠朝氏が
昭和天皇御製

**天地の神にぞいのる朝なぎの
海のごとくに波たたぬ世を**

に作曲撮付されたものです。

浦安とは、心の安らかという意味で、平和を祈る心の舞です。古く日本の国を浦安国といったのは、風土が美しく平和であったからです。

舞は、扇の舞、鈴の舞から成り、舞姫は、平安朝の頃から宮中で用いられてきた奥ゆかしい美しい装束（あこめ装束）を着けて、前半は檜扇、後半は鈴を持って舞います。

とえに熱心に研鑽を積んでこられた努力が身を結んだものと思います。今後は全国的にも遅れている北海道に正しい形で祭祀舞が普及するよう、成果を發揮していただきたく期待いたします。

心のうち短歌で表現

清水神社

三澤吏佐子さん

第四十一回 北海道歌人会賞に輝く!!

研究され七五調には親しんでいたとはい、神職と家事を両立しながらの受賞。本当におめでとうございます。未発表作三十首で構成される受賞作「光の幹」は札幌・ススキノが描かれています。三澤

さんは十勝青年神職会会長・道神青の理事。道女子神職協議会理事を務められており、札幌での会議はテレビ塔が光の幹にかかるところを生かし、大いに活躍されることを期待しております。

短歌三句

光の壁落ちてきさうな交差点

鳩は時へ帰りゆくらし

多くのそこで見かけた風景と人々の心情をしとやかな感性で詠み、評価されました。「宗教人として

雑居ビルの谷間二坪ほどの店

夜どほしくれなゐの花あふらする

たことではなく、社頭においても同じことですが言えます。

もちろん、心ある人達は落ちているゴミを見つけて拾つたりしてくださいますが、タバコの吸い殻、空き缶などはいまだに後を絶ちません。

また、分別収集が進んでいるなかで、焼納物の中に化織の縫いぐるみや燃えない廃棄物を詰めて何げなくおいて行く心ない人もいます。

こうした自党のない行動が環境問題をうみ、ひいては自分たちの生命を脅かす危険な状況を作り出していることを、もつと一般の人達に知つてもらうこと、そしてそのための警鐘を何らかの形で鳴らして行くことがこれから斯界の役目のひとつではないかと考えます。

また、社頭でも危険物を分別したからそれでよいという訳ではなく、焼納には細心の注意を払つて有害物質をできるだけ出さないようにする、氏子の方々にチラシなどで有害物質分別の大切さを訴えていくなど、より一層自然保护に対する姿勢を明らかにする必要があるのではないかでしょう。

ダイオキシンってなに?

ダイオキシン問題について、報道機関等で盛んに取り上げられ、色々な報道が為されておりましたので、すでに詳しい知識をお持ちの方もいらっしゃるでしょうが、どんどん焼きや環境問題を考える前の基礎知識として、必要な部分について取り上げさせて頂きます。

ダイオキシンとは、ダイオキシン（PCDD）ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）コプラナーペCB（CO-PCB）を含めた、三種類の化学物質の総称です。一口にダイオキシンといつても、沢山の種類があります。なかでも、最も強力な毒性をもつのが『2・3・7・8四塩化ダイオキシン』と呼ばれるものです。

その毒性の強さは、モルモットの実験結果にもとづいて計算すると、一グラムで約一万七千人を殺せるほどです。（サリンで約五百人）

ダイオキシンの元になつている元素は、どこにでもある炭素、水素、酸素、塩素です。これらの元素が、三百度から六百度以上に熱せられると、猛毒ダイオキシンの

完成です。酸素の量が足りない不完全燃焼のときに多くでき、完全燃焼に近い形で八百五十度以上の高温で燃やせば、ほとんど発生しません。特に千度以上の高温では分解するので、焼却施設にその温度で燃やす能力があれば、当然発生しません。

ダイオキシン大量発生の犯人は塩素を含むプラスチックとビルです。我々のどんどん焼き問題の犯人も塩化ビニールです。これを燃やさないために、分別作業を行い、燃やさない使わない努力と協力がなされています。

これは衝撃の事実ですが、紙を燃やしてもダイオキシンは発生します。スウェーデンの研究結果では、標準ごみの約三分の一となつています。紙を燃やしても発生する訳は、紙の漂白に塩素を使うからです。しかし、悲觀することはありません。分別作業、紙や木製の御神札・お守りにすることにより、ダイオキシンの発生は三分の一に押さえられるのです。少量に押さえる努力が大切なことなので

十年たつてから、やつと半分が体外に排出されるという特性をもっています。食物や呼吸を通して取込まれたダイオキシンは、体の中

にどんどん蓄積・濃縮されます。ダイオキシンの九十五パーセント以上は食物から体に入ります。

食物連鎖によつて、ダイオキシンの濃度が高くなるからです。汚染された食物を食べれば、濃縮されたダイオキシンを、効率よく体内に取込んでしまうのです。

ダイオキシンの毒性は、発癌・免疫低下・生殖毒性など数多くあります。これらの毒性で危ないのが、赤ちゃんと幼児です。

母親の体内で濃縮されたダイオキシンは、胎盤や母乳を通じて赤ちゃんに送り込まれます。そして赤ちゃんにひどい汚染をもたらします。しかし、母乳をあげることによる効果には、すばらしいものがあります。しかし、母乳をあげることによる効果には、すばらしいものがあります。母乳による病気が沢山あります。母乳による病気に対する免疫や抵抗力。精神的安心して母乳を飲める赤ちゃんのため、我々の子孫のために、

真剣に考えましょう。

ストップ・ザ・ダイオキシン

（7）

●この作品に自信あり!●

神青協創立五十周年記念事業

この度、財神道文化会と神青協が、創立五十周年を記念して「杜のシリーズ」を企画致しました。本シリーズは、青少年を対象に、にほんの歴史・文化・伝統を踏まえ、神道の知識を正しく伝えるとともに、情操を培い、信仰心を涵養することを目的としています。また、いっぱいの方にもお読み戴けるような構成となっています。特に社頭授与品に最適な体制・編集を行っています。



「お稻荷さま」「お宮のはなし」

体裁/A5版・4色刷・20頁

価格/180円(税込み・送料実費)

申込 本書のお申込みの取り纏めは、下記で行います。

申込先/財神道文化会

住所/東京都渋谷区代々木1-1-2 神社本庁内(〒151-0053)

TEL 03(3379) 8017・8281

FAX 03(3379) 8299

その他/お申込は、FAXまたは、お電話でも承ります。

名入れ印刷も実費で行いますので、お問い合わせ下さい。

【道神青スボーツ大会】・【臨時総会】

十月七日開催予定!
詳細は後日お知らせ致します。

七五三などの子供向け授与品に最適

御案内

平成十年度北海道神道

青年協議会研修会について

日 時 十月二十日～二十一日
(一泊二日)

会場 苫小牧市Hニュー王子

主題 『史実の検証と
これからの中年』

—— 真の日本文化の
再興にむけて ——

講師 東京大学教授
藤岡信勝先生

会員 中村繁先生

会費 一八,〇〇〇円
担当 胆振青年神職会

☆詳細は担当神青から、御案内
があります。多数の御参加を
お願い申し上げます。

題字 『道神青』は平成四年
二月一日創刊にあたり、当時の
中野伊亮北海道神社庁々長に揮

毫頂いたものです。

編集後記

第十二号の編集に当り、貴重な

ご寄稿をいただきました皆様に、
厚く御礼申し上げます。

掲 通信第十号に植田会長の、「どんどう焼き」とダイオキシン」か

ら始まり、第十一号では三頁に渡り各神社の対応記事が掲載され、
当会に置ましては、引き続きこの種の問題をテーマに、特集記事を掲載していくことになりました。

植田会長の「我々は積極的に環境浄化の先達として地域をリードしていかなければならぬ立場にある。その意味でどんどう焼きは、我々のフィールドで環境問題をアピール出来る絶好の機会であるとの認識の上に立ち、先ず動いてこそ青年神職の青年たる所以であると信ずる」。(第十号掲載)
この情熱あるメッセージと共に共鳴し、我々青年神職が積極的に行動する事で、地域における神社の尊厳とどんどう焼きの意義が確立出来ると信じます。

敬神生活の綱領の「神のみこと」と「を今一度再認識し、実行すべき時ではないでしょうか。
清潔な美ある日本を築く為に。